

先日、出雲市のがんサロン仲間から電話があり、プロの歌手ががんサロンの歌を歌いたいとの申し出があったと聞いた。11年前、全国初のがんサロンを開設した際、がんサロンの歌がほしいと思い、がんサロン仲間呼び掛けて、まず歌詞を作った。タイトルは「いのち」。それにふさわしい歌詞を「センテンス」ずつ書

## がんから学ぶ

—がんサロン主宰者が語る—



1937年5月、石川県金沢市生まれ。同志社大学文学部卒。特殊精密機器メーカーの㈱フジキン 総務部長兼改革推進室リーダーを経て、1994年3月、1ターンの益田市移住。益田ドライビングスクール合宿型システム作りを依頼される(ガアの夜明けで放映)。その後、C・T・V創生研究所設立。地域で観光、定住、教育、医療など街おこしを実施。2005年12月、全国初のがんサロン開設。

島根益田がんケアサロン 代表  
C・T・V創生研究所 所長 納賀 良一

# プロ歌手から突然の依頼

き出し、持ち寄って試行錯誤しながら今の歌詞を作り上げた。

「いのち」 作詞・ほっとサロン益田

ありふれた日々、涙があふれる

はじめて、いのちの重さを知った

新しい自分を見つけ、見つけた

勇気の一步を踏み出して

だれも、一度のいのち、だれも

終わりのあるいのち

変わる勇気を、教えてくれた

忘れないよ、ありがとう

あなたと、出会えてよかった

勇気の一步を、踏み出して

その後、元益田市役所職員の娘が曲をつけてくれた。「がんサロン支援塾」などイベント時に時々みんな歌っている。その曲をプロが歌うという。どんな曲になるのだろうか。楽譜と歌詞を送った。

後日、編曲されその歌を聴きに出雲市まで出向いた。2月6日のことだった。歌い手はミネハハさんというプロの歌手、コマーシャルソングの女王と言われ

ている人物らしい。編曲されたのが数日前で、準備不足なのか、歌いながらなかったのか。私たちが平素聞きなれた歌とはちょっと違っていた。感情をこめて歌ったのが、重く感じてしまったようだ。聞く歌の感じの印象が全く違った。やはり内容的に歌詞は重たい感じがする。だからさりと歌うほうが耳になじめるのではないか。

4月16日、出雲市で本格的なりサイタルが開催された。私は参加できなかったが、仲間のNさんが参加してくれた。300名を超える参加があり、大盛りあがったと聞いた。私たちが作ったがんサロンの歌も披露されたらしい。こんな場で「がんサロンの歌」が一般の皆さん方に披露されるとは思わなかった。そのあと地元に入りしているシンガーソングライターMさんにも歌ってほしくて楽譜とCDを渡した。両方の歌手の歌を聴き比べて見たいのが本音だ。その時が何時くるか、心待ちにしている。